

父の心配と 親子の遺伝。

ヘーベルハウス

2.5世帯ものがたり

～第4話～

姉は結婚したいのだろうか？

実家の両親と姉、そして僕の四人家族で同居する「2.5世帯」。昨晚申し出た後、話が進むかと思いきや、ちょうど始まった二時間サスペンスがあまりに面白く、その痛快な事件解決とはうらはらに、こっちの結論はうやむやに終わった。翌日、縁側でくつろぐ僕のもとに父がきた。六十七歳、元公務員。ノンキャリアながらもこの家を見て、由紀子姉さんと僕を育ててくれた、不器用で、口下手で、家族想いの父。「父さんはアレだ、2.5世帯賛成だ」大事な話をするとき「アレ」と言うのが父の口癖だ。「でもアレだな、孫と住むなんてサイコーだ」二人の孫を溺愛する父。「逆にアレだ、恵さんはどうなんだ？」「恵も（十六万のブランドバックで）まあ前向きだよ」妻の恵のことをいつも気遣ってくれる父。「ところでアレだ、由紀子は・・・結婚する気はあるのか？」「なに急に？僕に聞かれても」三十八歳の由紀子姉さんの結婚。本人には聞きづらいようだが、父は心配していた。そこに化粧をばっちり決めた姉が通りかかる。父に代わり僕はあえて直球で聞いた。「姉さんは、アレかな？結婚とかアレなのかな？」「ていうかホームページ見たわよ。『ヘーベルハウスの2.5世帯住宅』。ステキな部屋用意してくれるのね私に」「え!?」「あんな部屋なら一生住みたいかも」「え!?」声をそろえる父と僕。「冗談。結婚も考えてるけど、まだまだ私の自由にさせてよ。でももし2.5世帯建てたあと私が出て行ったら、私の部屋取り合いになるかもよ」いたずらっぽく笑う姉。「あ、まだOKした訳じゃないからね。じゃあねアレアレ親子。行ってきまーす」姉の結婚の意思を聞き、安堵と寂しさの入り交じった複雑な表情を見せる父。「父さん、アレだよ元氣出せよ、趣味とかアレしてさ、」親の愛情と遺産を実感した夏の午後だった。

（明日予定の広告紙面に）つつく

2.5世帯住宅で、暮らしませんか？

考えよう。答はある。

ヘーベルハウス



0120-917-555

電話受付時間 / 10:00～17:00 (火曜・水曜定休日)
※地域により留守番電話になっている場合がございます。

<http://www.asahi-kasei.co.jp/hebel/>

【個人情報の利用目的について】お問合わせ・資料請求でいただいた個人情報は ●カタログ・資料の送付、見学会・セミナー等の各種イベント等のご案内 ●建築計画の提案、図面・書類等の作成のための各種調査・サービスのご提供 ●商品やサービス等の開発・改善のためのアンケート調査の実施等に利用させていただきます。詳しくは「プライバシーポリシー」として弊社ホームページにて公表しています。